

# 人権についての市民意識調査結果報告

問い合わせ先 人権施策課 28-6073

本市では、「四国中央市人権尊重のまちづくり条例」を制定し、差別のない明るい、住みよい、豊かなまちづくりの実現を目指しています。その取り組みの一つとして、同和問題をはじめとする、あらゆる人権問題について、市民の意識や理解の実態について調査し、今日までの人権・同和教育及び啓発の成果と課題を見出し、今後の取り組みの基礎資料とするため、市民意識調査を実施しました。

また今回の調査は、「四国中央市人権施策基本計画」に基づき、同和問題をはじめとする人権全般の視点に立ち、「人権についての市民意識調査」として実施しました。その調査結果がまとまりましたので、主な内容をお知らせいたします。

## ○調査の方法

本市に在住する、満20歳以上の男女1,500人ずつの3,000人を無作為にコンピューターで抽出。全25問の設問に対する、番号選択による回答方式。

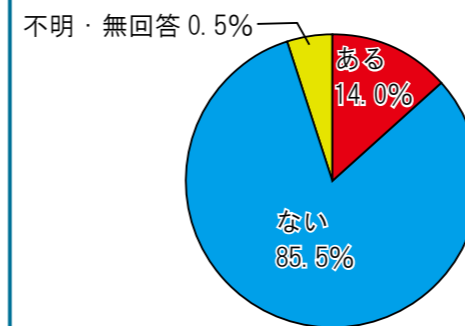
## ○回収の状況

対象者数 3,000人 回収者数 1,466人 有効回収率 48.9%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

## 調査内容から

問あなたは、最近（過去3年程度）、自分や家族の方の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

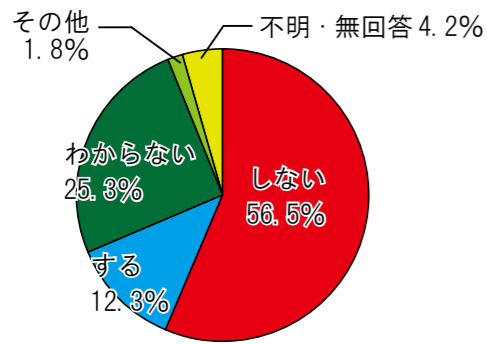


考察 市民の10人に1人から2人が人権侵害を受けたことがあると回答しています。その相談相手として、多くは身近な人へ相談し、公的相談機関などへの相談が少ない結果となっています。人権侵害への対応として、これまで以上に公的相談機関などの周知や、連携、強化を図っていく必要があります。

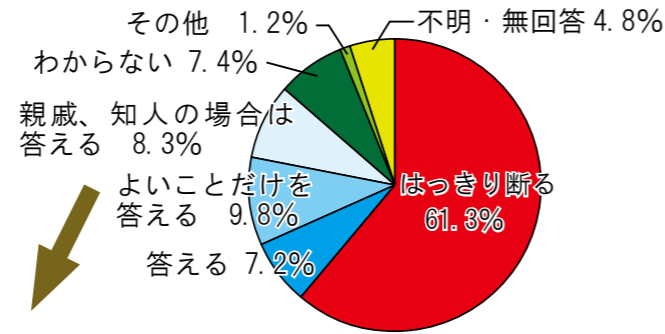
問あなたが、ご自分の人権を侵害された場合、まずどのような対応をしますか。

NO	選択肢	回答率
1	黙って我慢する	13.0%
2	相手に抗議する	18.1%
3	身近な人（家族、友人）に相談する	52.3%
4	市役所に相談する	3.8%
5	弁護士に相談する	1.6%
6	警察に相談する	2.0%
7	法務局または人権擁護委員に相談する	2.3%
8	その他	2.2%
	不明・無回答	4.6%

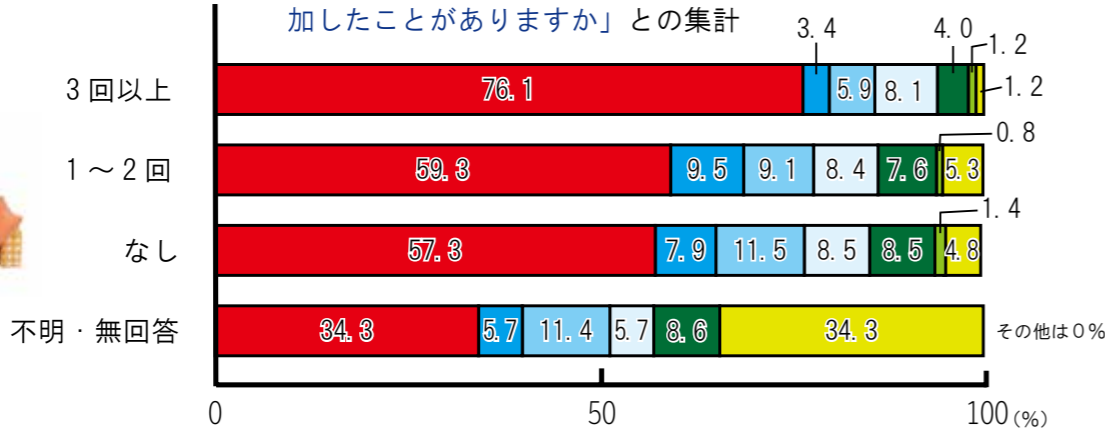
問あなたは、自分もしくは自分の子どもが結婚の際、相手のことをよく知るために身元調査（聞き合わせ）をしますか。



問あなたの家に、身元調査（聞き合わせ）に来たとき、あなたはどのように対応しますか。

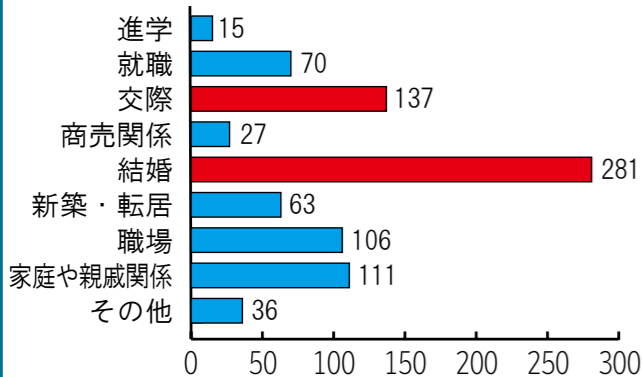


「最近、人権・同和教育の学習会に参加したことがありますか」との集計



考察 身元調査への対応として、「はっきり断る」と答えた人が、前回調査より増加し、6割を越えています。これまで取り組んできた運動など、教育や啓発活動が成果として現れています。また、学習会などへ参加している人ほど、「はっきり断る」と答えている人が多い結果となっています。継続した教育・啓発や市民運動として取り組むことの重要性を示唆しています。また、身元調査を「しない」と答えた人も、前回調査より増加しました。しかし、身元調査が自分の身近な事に関わってくると、わからなくなる人がいるという結果も、二つの設問からみえてきます。今後も、継続した取り組みを行っていく必要があります。

問あなたが、最近、同和問題について身近で見たり、聞いたりしたという方にお聞きします。それは次のどのような場合ですか。



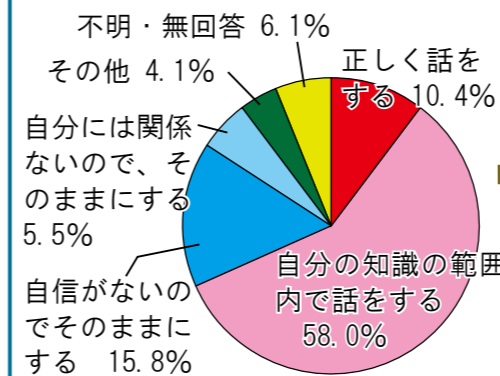
考察 同和問題を身近で見たり、聞いたりした人の件数や人数は、前回調査より減ってきていますが、「結婚」や「交際」の場合と答えた人が多く、身近な問題になったときに顕在化していると考えられます。これらの数字は、差別の現実を捉えた数字であり、まだまだ同和問題が「ある」という厳しい現実が存在しているといえます。同和問題の一番大きな課題が結婚問題であるといえることから、今後も更なる教育・啓発活動を続けていく必要があります。

まとめ 調査の結果から、市民意識の現状を少し紹介しました。結果を見ると、人権問題について前向きに取り組む人が増えており、これまでの人権・同和教育や啓発の成果が少しずつ出てきているといえます。

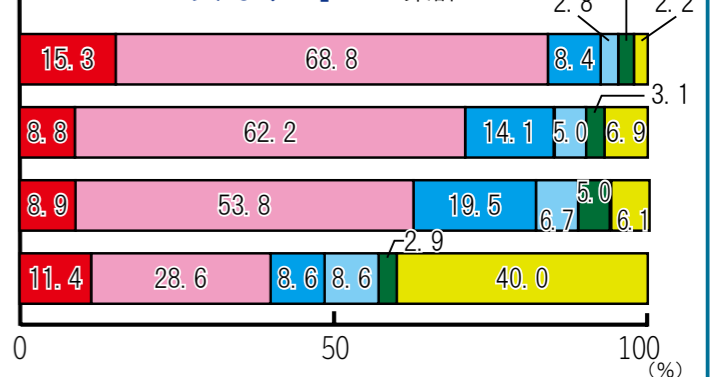
その一方で、同和問題がまだまだ根深く残っていることもうかがえます。学習会などに参加し、正しい知識を身につけた人が、差別解消への中心的原動力となり、自信と積極的行動力へつながっていることがうかがえますが、差別はいけないうちからわかっていても、自分がどう行動すれば良いかわからない人が多いこともみえてきます。また、世代によって意識の違いや、関心を持つ部分に違いがあることもわかりました。今後は、各年代のニーズに合う、ターゲットを絞った学習会などを開催する必要があります。一人ひとりの人権が尊重され、差別のない四国中央市を実現するため、今後も積極的に学習会などに参加しましょう。

なお、市民意識調査報告書については、市ホームページにも掲載していますのでご覧ください。

問あなたは、地域や職場、家庭で差別的な発言を聞いたとき、どのような行動をとりますか。



「最近、人権・同和教育の学習会に参加したことがありますか」との集計



考察 差別的な発言への対応として、「正しく話をする」「知識の範囲内で話をする」と答えた人が7割近くおり、前回調査より増加しています。「話をする」と答えた人、つまり行動を起こす人が増えていることは良いことです。また、人権・同和教育の学習会などへ参加している人ほど、「話をする」と答えた人が多くなっています。これは、学習会の成果と考えられ、今後も継続して学習していくことが重要であることを示しています。